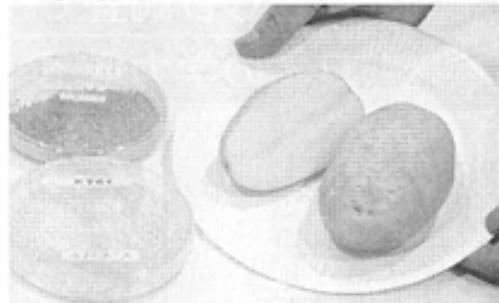


新開発された「はるか」(右)と、「北海T8号」(左上)、「ゆきのめぐみ」(左下)



新開発の米を披露

北海道農業研究センター(札幌)は四日、新開発のコメなど三品種の発表会を札幌市中央区のホテルで開いた。いずれも将来の主力品種と期待されており、訪れた消費者や農業関係者らの注目を集めていた。

「北海道農業研究センター」イモ、ソバも

発表会は昨年同様、二回目を迎えた。本年度に農林水産省に新品種命名登録を申請したコメ「ゆきのめぐみ」、シタクラタンなどの試食も行った。イモ「はるか」、タツタソバ「北海T8号」を披露した。

披露した。

ゆきのめぐみは、現在主力の「はしのゆめこ」に比べ、胚芽の重さが二倍、血圧上昇の抑制作用があるとされるアミノ酸「ギャバ」が二・四倍、ビタミンEが二・六倍あるとされる。同様のコメはこれまで、東北以南でしか栽培できなかった。

はるかは青果にも加工用にも適し、虫害にも強いのが特徴。北海T8号は従来種より収量が多く、健康に良いとされるルチンの含有量も多い。ゆきのめぐみのリフトや、はるかが入ったクラタンなどの試食も行った。イモ「はるか」、タツタソバ「北海T8号」を披露した。と評判は上々だった。